

科目名		聴覚障害演習			授業の種類	演習	講師名	
授業回数	15回	時間数	30時間	(1単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科3年	必修・選択	必修
〔授業の目的・ねらい〕								
聴覚の発達とその障害の多様性について習得する。								
〔授業全体の内容の概要〕								
言語聴覚障害の種類の1つとしての聴覚障害について学ぶ。								
〔講師の実務経験〕								
〔授業終了時の達成課題（到達目標）〕								
聴覚障害の基礎とその障害への対応について理解する。								
回数	講義内容							
1	オリエンテーション							
2	聴覚経路とその障害（1）							
3	聴覚経路とその障害（2）							
4	伝音難聴と感音難聴（1）							
5	伝音難聴と感音難聴（2）							
6	伝音難聴と感音難聴（3）							
7	聴覚の発達（1）							
8	聴覚の発達（2）							
9	聴覚障害とコミュニケーション・モダリティー（1）							
10	聴覚障害とコミュニケーション・モダリティー（2）							
11	補聴器と人工内耳（1）							
12	補聴器と人工内耳（2）							
13	聴覚障害へのアプローチ（1）							
14	聴覚障害へのアプローチ（2）							
15	まとめ							

【 準備学習・時間外学習 】

--

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
聴覚検査の実際 改訂4版		南山堂

【 単位認定の方法及び基準（試験やレポート評価基準など） 】

試験の結果を100点満点として成績を評価する。試験は定期試験のみ実施とし、60点以上の場合に科目を認定する。
--